

大津・SDGs協働支援プロジェクト2020

今年度の寄付先は「子ども若者支援」に取り組む団体です。

Enjoy life!
Enjoy Charity!



大津・SDGs協働支援チャリティプロジェクト2020 報告書

大津市市民活動センター

ご挨拶

大津市長 佐藤 健司

昨年度には、大津市市民活動センターにおいて、「誰一人取り残さない」社会の実現に向け、市民、行政、企業、大学が協働により、「大津・SDGs協働支援チャリティプロジェクト2020」を開催され、SDGsの基本理念や本市における協働のまちづくりの推進に取り組まれたことに対し、関係者及び参加していただいた皆様に感謝申し上げます。

本市では、すべての人が安心して暮らし続けることが出来る「夢があふれるまち大津」の実現に向け、令和6年度までの4年間を計画期間とする大津市総合計画第2期実行計画を策定しました。その中で、重点的に取り組むべき施策として「暮らし安心プロジェクト」を掲げ、誰もが主体的にまちづくりに参加し、将来にわたり、助け合い支え合う協働のまちづくりを推進しているところです。

今回のプロジェクトを通して得た、かけがえのない人と人とのつながりを大切にし、今後の活動に活かしていただくことが、SDGsの基本理念や協働によるまちづくりの推進につながるものとご期待しております。



大津市市民部長 小島 浩幸

大津市では、36のそれぞれの学区において、自治会・自治連合会をはじめとする各種団体を中心に、地域の安心・安全なまちづくりに向けた取り組みを進められています。しかしながら、地域のまちづくりにおいては、少子化や超高齢化の進行など、地域を取巻く環境の変化により、地域活動の担い手不足や活動の継続が課題となっている状況が伺えます。

このような地域の状況や特色を踏まえながら、協働のまちづくりを推進するため、令和2年度に「大津市協働のまちづくり推進計画改定計画」を策定しました。改定計画では、地域の特色や実情に応じたまちづくりを推進するとともに、協働による地域活動の担い手の充実と意識醸成が図れるよう、地域とともにまちづくりに取り組むための体制をより一層充実させることとしております。

今回、「大津・SDGs協働支援チャリティプロジェクト2020」に参加、協賛していただいた市民団体、事業者及び大学の皆様が、本市とともに、協働のまちづくりの更なる推進に取り組んでいただき、連携・協力した地域のまちづくりが展開されることをご祈念申し上げます。

2020年度のプロジェクトの成果

＜四者協働の推進＞

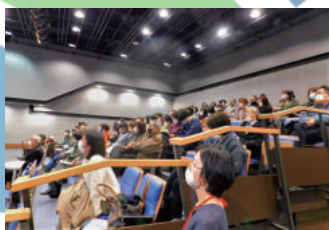
多くの市民公益活動団体、企業、大学、大津市、滋賀県または各種メディア等からご協賛やご協力頂き四者協働により事業を展開しました。

＜SDGSsに対する啓発・人材育成・交流活動の推進＞

SDGsの推進に向け「啓発・普及活動」「人材育成活動」「交流活動」に取り組み、新型コロナウイルス感染防止に十分配慮しながらイベントやフォーラムを開催し、多くの市民より好評をいただきました。

＜コミュニティファンドと寄付支援・資源提供の体制づくり＞

大津で子ども・若者支援に取り組む4団体に対し、各々11万1千円の寄付きんと人材や体験プログラムのマッチングなどの支援を行いました。



1.プロジェクトの目的と概要

1-1. 大津・SDGsプロジェクトの背景と背景

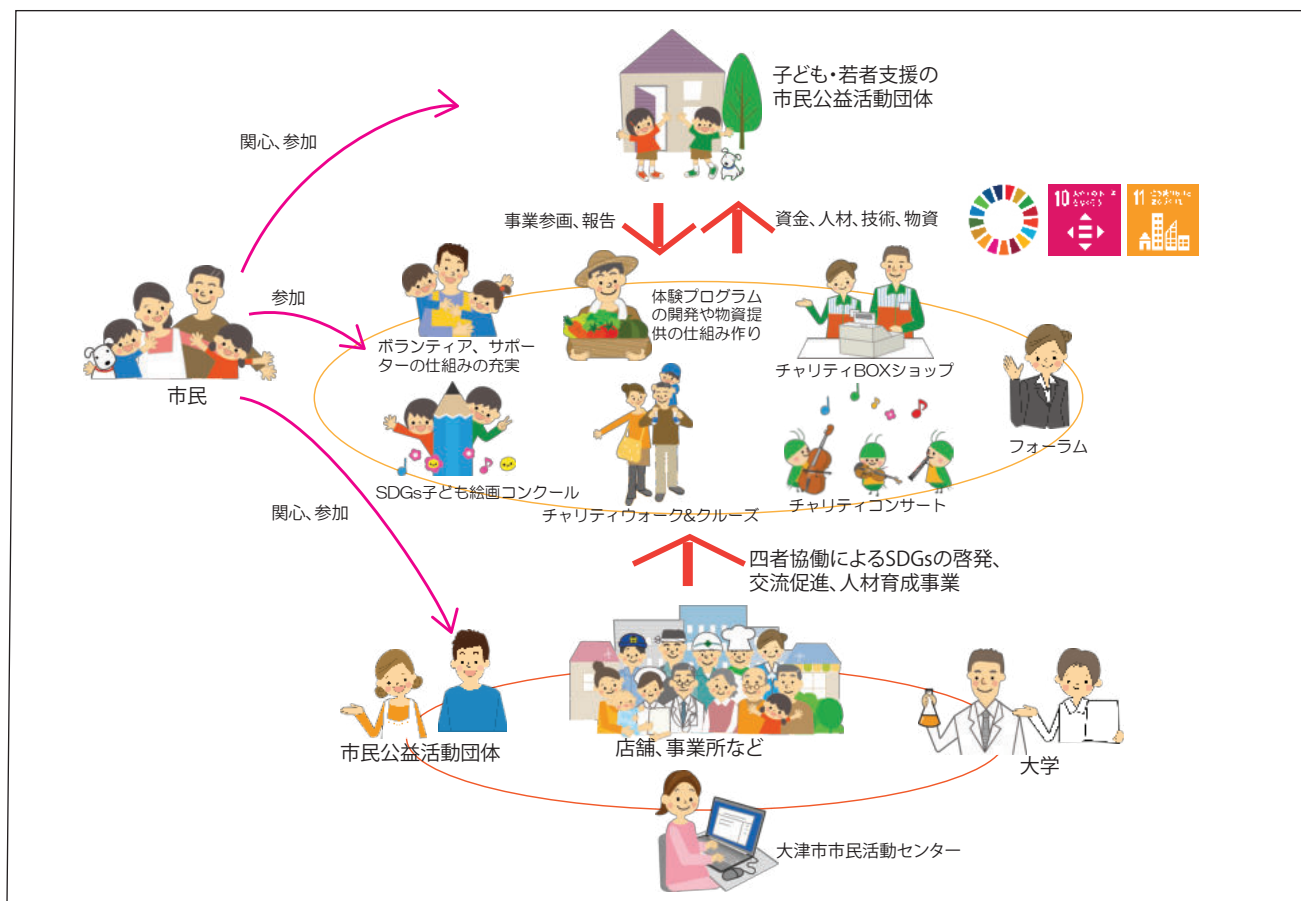
大津市では、2011年に施行した『大津市「結の湖都」協働のまちづくり推進条例』に基づき、三者協働によるまちづくりを推進しています。大津市市民活動センターは、市民公益活動の推進により地域社会に貢献することを目的とした公共施設です。近年、地域社会が抱える課題はますます増大し、市民公益活動団体はもとより、様々なセクターの協働が求められています。

2015年9月、国連に加盟する193か国が2016年から2030年の15年間で達成するためにSDGs（持続可能な開発目標）を採択しました。SDGsは17の目標と159のターゲットで構成されます。これらの目標やターゲットは、市民公益活動と深く関わり、非営利特定活動促進法に記された20の分野ともよく合致します。

当センターでは、2018年度から、SDGsをテーマとして、市民、行政、企業、大学の四者協働による地域貢献に取り組んできました。2018年度は事業の初年度として、フォーラムやフェスタなどSDGsの啓発に力を注ぎました。

2019年度からは「協働支援型寄付事業」として、各年度でテーマを設けて公募採択した市民公益活動に対して、四者協働によりSDGsをテーマとしたチャリティ事業を展開して寄付を行ってきました。このチャリティ事業は、それぞれの団体や個人がもつ得意分野を活かしながら具体的かつ継続的な社会貢献を進めるものです。

また2020年度からはチャリティに加え、人材や体験プログラムなどのマッチング事業を開始しました。市民個人のボランティアや企業の持つ技術などの資金以外の資源を、各年度のテーマに即した支援先団体と結びつけるものです。



市民、行政、企業、大学の四者協働によるチャリティやマッチング事業の仕組み

2.2020年度の取り組み

2-1. 大津の子ども・若者支援の取り組みへの支援

2020年度は、SDGsのスローガン「誰も取り残さない」を重視し、SDGsの目標年の2030年に大人になり社会を担う「子ども・若者支援」をテーマとしました。近年、子どもの相対的貧困や子どもの居場所、若者の引きこもりなどが社会的課題として大きく取り上げられるようになりましたが、2020年度はコロナウイルスの感染拡大による経済活動への影響から、それらの課題が深刻化しました。加えて全国で普及してきた子ども食堂などの、子どもを支える取り組みも困難となるところが多くありました。

本事業では、2020年6月に支援先団体を公募し、7月に審査会を開催した結果、「あめんど」「CASN」「こどもソーシャルワークセンター」「寺子屋共育塾」（いずれもNPO法人）の4団体の事業が採択されました。



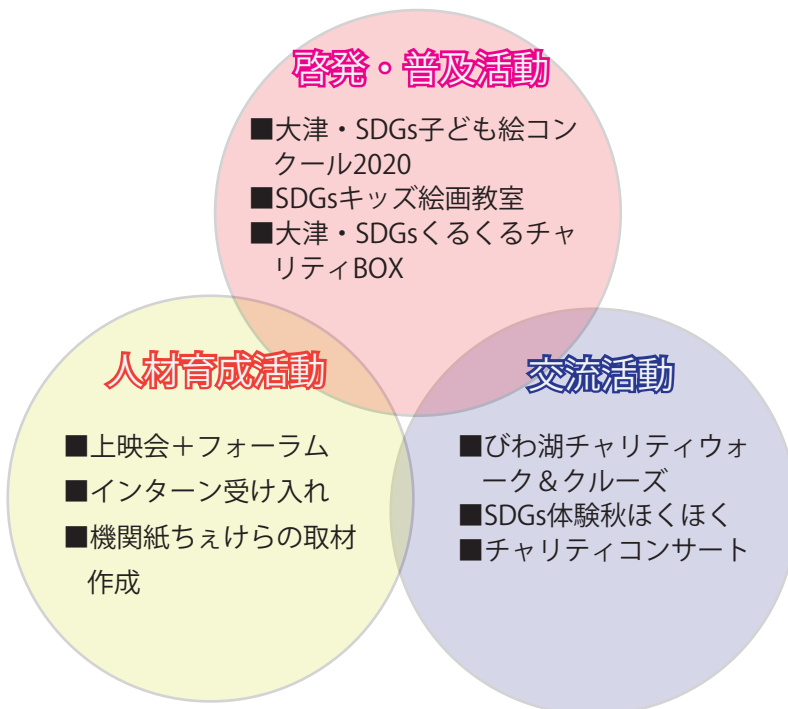
支援先団体の審査会

2-2. SDGsの推進：人や国の不平等をなくそう・住み続けられるまちづくりを

SDGsの推進としては、毎年「啓発、普及活動」「人材育成活動」「交流活動」の3つで事業を構成しています（左下図）。初年度の2018年度は「SDGsとは何か」について、子どもから大人まで、フェスタや講座などの事業を通して広く啓発する活動に重点を置きました。

2019年度からは17の目標からテーマを選び、各年度の目標について講座やフォーラム理解を深めることに努めました。2019年度は、「12. つくる責任、つかう責任」として、フードロスや資源の循環など幅広く取り上げた事業を行いました。

2020年度は「子ども・若者支援」に関連の深い、「10. 人や国の不平等をなくそう」「11. 住み続けられるまちづくりを」をテーマにしました。



国内および国家間の格差を是正する



都市と人間の居住地を包摂的、安全、強靱かつ持続可能にする

3.事業成果・「子ども・若者支援の取り組み」への支援

3-1. チャリティが目標金額に達しました

新型コロナウイルス感染拡大により四者協働のチャリティ事業も難しい状況でしたが、多くの市民や協賛企業・団体、大学ができることを持ち寄り運営しました。その結果、2020年度末時点で目標金額の2倍の444,000円が集まりました。この寄付金は2021年度に下記の事業で活用されます。

①「NPO法人あめんど」

一人前シェアリングという働き方の実現事業

昨今の社会課題である不登校・ひきこもり・ニートなど、社会参加が困難な若者がふえています。彼らは自分の能力やコミュニケーションに自信がないので、一般就労やアルバイトに不安を感じます。そして時間の経過と共に社会から取り残されます。今回の事業では一人分の仕事を3人で受けて、報酬を三等分する「一人前シェアリング」という働き方を施行します。収入ゼロの状態が10年続くよりも、少しでも報酬を手にして社会参加の喜びを味わってほしい。就労進行形のエンパワーメントの仕組みを実現します。



②「NPO法人CASN」

調理実習を通じて、子どもの生きる力ありのままの自分を出せる場を作る

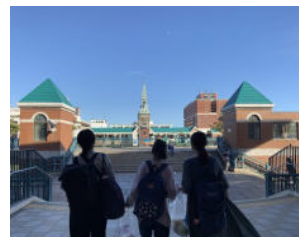
「晴嵐みんなの食堂」を初めて6年目になります。昨年度緊急事態宣言前は、不登校の子や食に欠ける子どもたちを対象に、少人数で月1回、調理実習という形をとって第三の居場所をつくってきました。「親に頼らなくても、自分で作ること」を目標に、お鍋一つでできる献立を考え、買い物、調理の段取り、味付けまで大人のアドバイスをもらいながら自分たちでやります。明日の朝ごはんが無かったりする子は、その分も作ります。子どもたちにとって安心してありのままの自分を出せる場を作っていきます。



③「NPO法人こどもソーシャルワークセンター」

遠足・旅行で日常とは違う環境と体験をあげたい

ある日センターを利用している女の子がいます。「家族旅行したことないし、学校行っていないから学校での遠足や旅行に行けない。ボランティアの人とどこかへ行ってみたいな」そんな子どもの希望を叶えるための旅行を実現します。どこへ行こう？何をしよう？子どもたちは、家で家族旅行の話や、学校の遠足や宿泊行事などの話し合いに参加したことがほとんどありません。ボランティアと事前に計画することがすでにドキドキする経験です。女の子は遠足後「大人になってまたここに来たい」とつぶやきます。体験が生み出す、その気持ちの変化が困難を抱えて生きていくときに力になります。



④「NPO法人寺子屋共育轍（わだち）」

地域の人の温かみにふれるきっかけをつくりたい

「子どもがおいてきぼりにならない社会へ」を理念に、子どもや保護者が孤立・孤独を抱えないために活動してきました。私たちは、地域の方々の応援で子どもを育むコミュニティを作りたい、そして「遊び」×「寄付」で地域資源の循環を生み出していきたいと考えています。今回の事業では生きづらさを抱えた子ども達が、地域の飲食店で食事をしたり、銭湯に一緒に入り、家族以外の人に親身に話を聞いてもらって、ゆっくりと楽しい時間を過ごすトワイライトで、人の温かみに触れるきっかけを作ります。



3-2. 資源のマッチングに取り組みました

人材や技術、物資などのマッチングは、活動のニーズを詳細に把握すること、それに見合った資源を持つ関係者との調整作業が重要となります。本事業では公募の段階で各団体への聞き取り、個人や団体との打ち合わせをできるだけ丁寧に進めました。コロナウイルス感染拡大により予定を変更せざるを得ない部分もありましたが、人的資源や体験プログラムの受け入れを行いました。

①ボランティアのマッチング

本事業のサポーターを募集した結果、15名の応募がありました。イベントなどの手伝いや、採択された「子ども・若者」支援活動にボランティアで参加されました。ボランティアの中には、センターからのサポーターとして参加された後も、定期的に参加される方もおられます。

<サポーターの声>

- ・調理ボランティアに参加
「普段の家事の延長でできる調理のボランティアなら今後も続けられそうなので、自分にできる範囲で今後も関わっていけたら」
- ・高校内居場所カフェに参加
「昔はまだ周りの人が声をかけ気にかけてくれた。そのおかげで今がある。若い人達にもそのことを知ってもらいたい。また行きたいと思っています」
- ・センターのイベントに参加
「大津市内でもこうやって、生きづらさを抱えた子どもや若者がいて、それを支えるために頑張っている団体の活動を実際に見たり、知ることができた」

②仕事場見学の受け入れ

10月12日にあめんどのスタッフと利用者の若者5名が、某施設を見学させていただきました（コロナウイルス感染拡大に配慮し体験は見送りました）。施設の各所で来訪者向けに案内に立たれる方の言葉や行状と態度から、どなたも誇りをもって任に当たられているのがよくわかりました。植物の管理でも自然との共生という観点から「野山や植物について豊富な知識が必要。何でも除草すればよいという事でもないのですね」と、ある若者は作業と仕事の違いについて少し考える機会となりました。（NPO法人あめんど）



4. 事業成果・SDGsの推進

4-1. SDGsを伝える・啓発活動

①大津・SDGs子ども・絵画コンクール2020

(授賞式12/5 浜大津スカイプラザ浜大津

31作品応募 入選4名、受賞者6名)

今年度のSDGsの取り組みのテーマである「10. 人や国の不平等をなくそう」「11. 住み続けられるまちづくりを」を題材とした作品を、大津市内の小学校3年生から中学生を対象に募集しました。38の応募作品より大賞(市長賞)1点と協賛企業10社からの特別賞5点を選定し、12月5日の授与式で賞状と副賞を授与しました。また全ての応募作品は弊所やイオンスタイル大津京で展示しました。



スカイプラザ浜大津にて絵画授賞式の様子

②SDGsキッズ絵画教室

(8/2/・8/9大津市民民活動センター

参加者30名)

教室に参加した子ども達はクイズ形式でSDGsについて学んだ後、水彩画の先生に表現技法を学びながら、SDGsをテーマに絵を描きました。



おもしろい絵画技法を披露中

③大津・SDGsくるくるチャリティBOX

(昨年度から継続 協賛企業等計7店舗に設置

今年度新規4店舗)

市民公益活動団体が生産したお菓子・農産物・文具・小物等を企業や団体のオフィスなどで社員向けに頒布し、価格の10%を寄付しました。

SDGs子ども絵画コンクール2020大賞作品
「琵琶湖を中心に世界はつながる」



<受賞した子どもからのメッセージ>
どんな人々も、みんなで手と手を取り
合い住みやすい国にしていきたいと思います



事業所などに提供している、くるくるチャリティBOX

4-2. SDGsを育む・人材育成活動

①「子どもたちをよろしく」上映会＋「大津の子ども・若者と一緒にいるために」フォーラム (3/13 浜大津スカイプラザ浜大津

参加者185名)

「貧困ジャーナリズム大賞2020」の特別賞を受賞した「こどもたちをよろしく」を滋賀県で初上映しました。また映画のプロデューサーであり、京都芸術大学客員教授の寺脇研氏を特別講師に招聘し、基調講演をいただいた上で、支援先の4団体、草津市の団体や大津市社会福祉協議会をパネラーに迎えたフォーラムを開催しました。



フォーラムの寺脇氏基調講演

②「子ども・若者」の現状や団体の取り組みについての情報発信

本事業のサポーターが、支援先である子ども若者支援団体が主催する、高校内での居場所事業や、子ども食堂に参加し、体験を記事にして、当センターの機関紙「ちえけら」で情報発信しました。



フォーラムで7人のパネラーによるディスカッション

③インターンの学生によるSDGs講座

チャリティイベントの「琵琶湖チャリティウォーク&クルーズ」「秋ほくほく」「チャリティコンサート」では、滋賀短期大学の学生が、市民や子どもがSDGsについて学ぶプログラムを提供しました。クイズ形式で、学生ならではの視点が活かされたプログラムは子どもや親子連れに好評でした。



インターンの学生、SDGs講座の受付準備

参加者の声など

「子どもたちをよろしく」上映会＋「大津の子ども・若者と一緒にいるために」フォーラム

- ・映画を見て、考えさせられるものが多くありました。改めて、支援の現場にかかわっていかねばと考えています。
- ・フォーラムでは子どもを支援する団体がたくさんあり心強かったです。こういう活動している団体を市民がもっと知るべきだと思いました。

インターンの受け入れ

- ・今回、子どもを対象にしたSDGs教室やイベント運営のサポートなどを担当しました。今、世界で最も重要なキーワードの一つであるSDGsについて学ぶことができ、またイベントの後、学生は「運営でのコミュニケーションの大切さ」「状況を判断し臨機応変に」など得るところがあったようです。地域の皆様と交流させていただいたことも大きな成長につながったと思います。これから社会に出る学生にとって、とても重要な経験になったと思います。



サポーターと意見を出し合い制作した機関紙

4-3. SDGsをすすめる・交流活動

①びわ湖チャリティウォーク&クルーズ

(11/22JR大津駅から大津港～琵琶湖クルーズ
参加者200名)

親子や家族づれを中心に、JR大津駅を出発し、SDGsに関するクイズに答えながら大津港まで歩き、ミシガンクルーズを楽しみました。琵琶湖汽船株式会社のご支援、多くの企業から景品などをご提供いただき、また市民公益活動団体や大学にも協力をいただきました。



クイズに挑戦する家族(左上)
ミシガンクルーズいざ出航(右下)

②SDGs体験 秋ほくほく

(11/22大津市市民活動センター

3教室、2店舗 参加者85名)

市民公益活動団体や事業所の協力により、子ども向けのダンボールプレイパーク、こども体操教室、カード作りの体験プログラムを開催しました。子どもたちは、インターンの学生によるSDGs講座を受けたのち、それぞれの体験プログラムを楽しみました。



③SDGsチャリティコンサート

スーホの白い馬～故郷の音色～

(12/5浜大津スカイプラザ浜大津 参加者93名)

小学生の親子づれが多く参加しました。インターンの学生によるSDGs講座を受けたのち、モンゴルの紹介ワークショップや、「スーホの白い馬」の物語の舞台、モンゴルの大草原をイメージした馬頭琴やピアノの演奏・歌のコンサートを楽しみました。



秋ほくほくに段ボール迷路を作成(左上)
SDGs講座のスライドで勉強中(右下)

参加者の声など

びわ湖チャリティウォーク&クルーズ

- ・ウォークラリーの距離は、2・4歳の子供達にも歩きやすかったです。
- ・蜜にならずとても良かった。スタンプラリーは勉強になった。

SDGs体験 秋ほくほく

- ・体操教室があったので参加した。また是非やってほしい。

チャリティコンサート

- ・とても響きのある歌声と楽器の音でした。モンゴルの風景が目に浮かぶような音でした。



スーホの白い馬音楽集団によるチャリティコンサート

5. 事後評価アンケート

5-1. アンケートの実施と回答

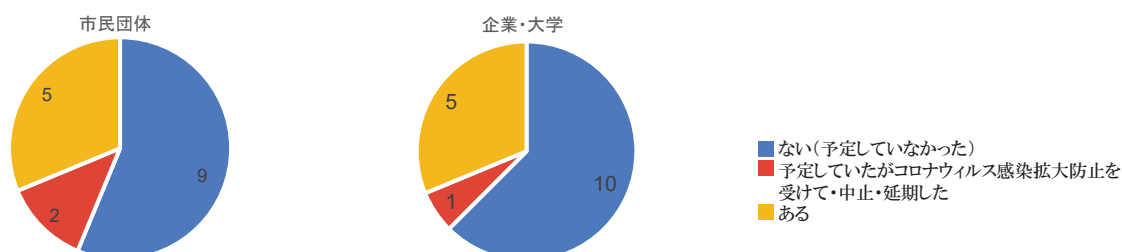
本事業に参加・協賛した市民公益活動団体・企業・行政を対象に事後評価アンケートを実施しました。市民公益活動団体からは16、企業からは15、大学からは1団体より回答を得ました。

5-2. 地域貢献やSDGsへの取り組み状況

①SDGsへの取り組み状況

本事業(大津・SDGs協働支援チャリティプロジェクト2020)以外にSDGsに取り組んだ有無については、新型コロナウイルス感染拡大により延期や中止になったものがありました。市民団体は7団体と昨年度の調査より1団体多く、企業は昨年と変わらず6事業所という結果になりました。

【本事業以外にSDGsをテーマにした事業の実施の有無】



②市民活動団体の活動状況

2020年度は新型コロナウイルス感染拡大により、影響を大きく受けたという声が多く聞かれました。

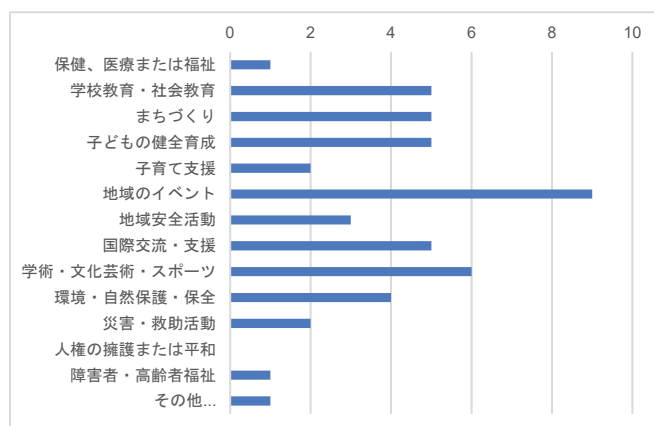
【今年度コロナウィルス感染拡大について】

- 活動を休止・中止した(3件)
 - ・学校への出前授業や、国際理解に繋げるイベントは中止になってしまったものも多くあった。
 - ・室内(体育館)での競技大会が、施設が利用出来ず中止せざるを得なかった。
- 活動が減少した(4件)
 - ・イベントが中止になり、活動を知ってもらう機会が大幅に減った。
 - ・不安感より生徒が減った。アウトリーチ活動として生徒の自宅に訪問する活動を実施した。
 - ・高齢者とコロナ感染は直結するものであり、活動事業が大幅に縮小した。
- コロナ対策に配慮して運営した(5件)
 - ・感染対策、検温や消毒、人数制限、会場の変更などをしながら、徐々に再開している。(2件)
 - ・オンライン会議で交流を行った。(3件)
- 活動の幅が広がった(3件)
 - ・一斉休校により行き場を失った給食用食材を各市給食センターから引き取り、食料支援に一定の評価を受け、フードバンクへの認知度が上がった。それによってフードドライブへの協力者が増え、食料の取扱量が激増した。
 - ・関係諸団体と協力関係を結ぶことができ、活動の幅が広がった。
 - ・地域包括支援センターと連携して取り組んだ。
- コロナウィルス感染拡大で事業ニーズが増大し活動が逼迫した
 - ・生活困窮に陥った人からの支援要請が増え、その対応に忙殺されるようになり、コストがかさみ苦しい運営を強いられた。

③企業の事業分野、SDGsや地域貢献等への取り組み

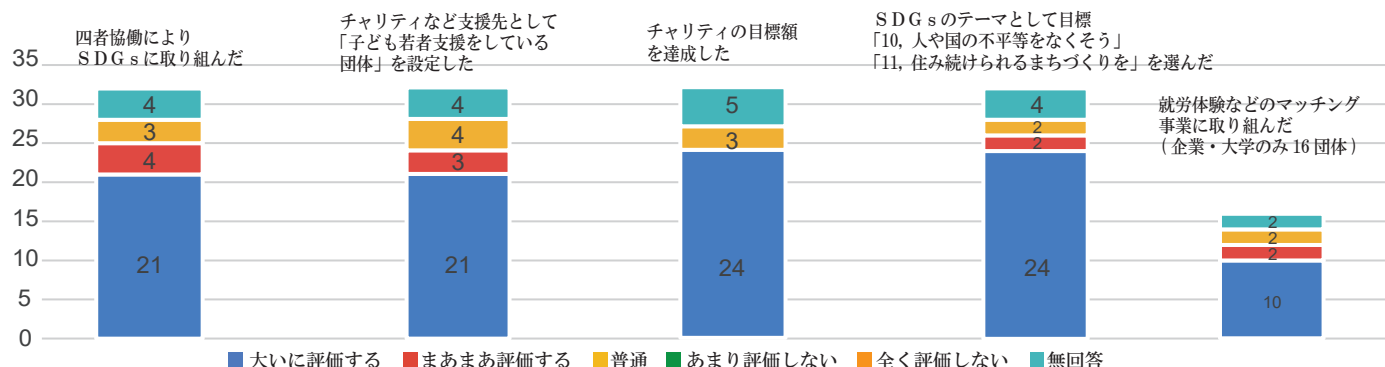
本調査に回答した15の企業がこれまでに取り組んだCSRや地域貢献活動、SDGsの分野を見ると、「地域のイベント」が9事業所と最も多く、「学術・文化芸術・スポーツ」「学校教育・社会教育」「まちづくり」「子どもの健全育成」「国際交流・支援」が続く結果となりました。

【これまでに取り組まれたCSRや地域貢献活動、SDGsの分野(複数回答可)】



5-3. 「大津・SDGs協働支援チャリティプロジェクト2020」への評価

回答した市民公益活動団体、企業、大学の65.6%以上がすべての項目で「大いに評価する」と回答しました。特に「チャリティの目標額を達成した」「SDGsのテーマとして『10. 人や国の不平等をなくそう』『11. 住み続けられるまちづくりを』を選んだ」には75%が「大いに評価する」「まあまあ評価する」と肯定的な評価を示しました。



●「子ども・若者」支援を対象にした

- 子ども若者支援の公的な補助が少ないなか、良かったと思う。
- コロナ禍での生活で、人々は心身に良くも悪くも大きな影響を受けました。特に子ども達が健康を損なうようなことがあったと聞いており、タイミングとしてとても社会問題にマッチしたテーマが多かった。

●SDGsの目標「10. 人や国の不平等をなくそう」「11. 住み続けられるまちづくりを」を選んだ

- 人や国の不平等や差別の問題、住み続けられるまちづくりは生協活動にも共通する。地域を巻き込んだ事業成果が素晴らしい。
- 弊社の事業内容として、環境保全やライフライン整備の観点から住みよい街づくり等に貢献したいと考えており、貴事業での取り組んでおられる内容は評価しますが、内容によっては完全にシンクロしない部分もあり、企業として評価が難しい。

●チャリティ事業で応援できる

- イベントに参加しながら、子どもや若者を支援している団体を応援できる仕組みが素晴らしいと思います。
- 全てを評価すべきものとする。但し、例えば「チャリティの目標額を達成した」とあるがその「目標額」設定の根拠が半ばは良いと思いました。

●寄付以外のマッチングがあった

- 今年度の寄付先である「子ども若者支援」に関して、寄付のみではなく、それに合わせた活動を積極的に行った。

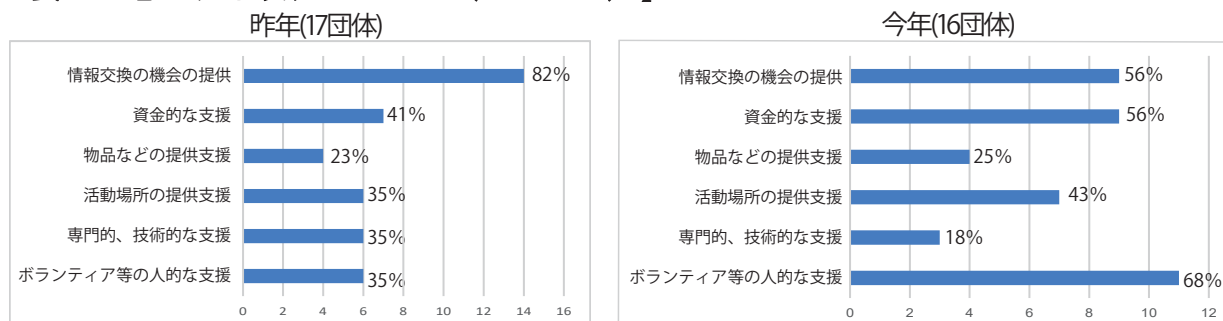
●四者協働で進めた

- 各団体で活動する以上に、目に見える形で大津市民に知ってもらう機会ができてよかった。

5-4. 今後の四者(市民、行政、企業、大学)協働の方向性

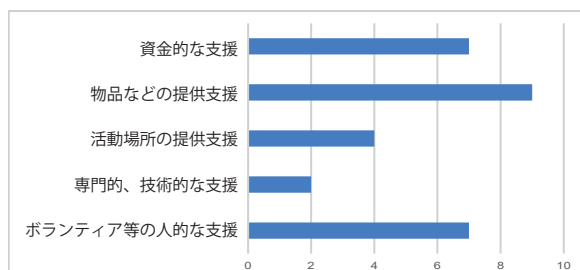
本調査に協力した市民公益活動団体および企業においては、人的、資金的な資源について必要性和提供への関心が高く、今後のマッチングの可能性が示されました。またマッチングにおいては、コーディネート体制が重要であるという認識が示されました。

①市民公益活動団体が認識する【四者協働により、活動を展開するにあたって取り組みが必要だと思われる項目について(3つまで)】



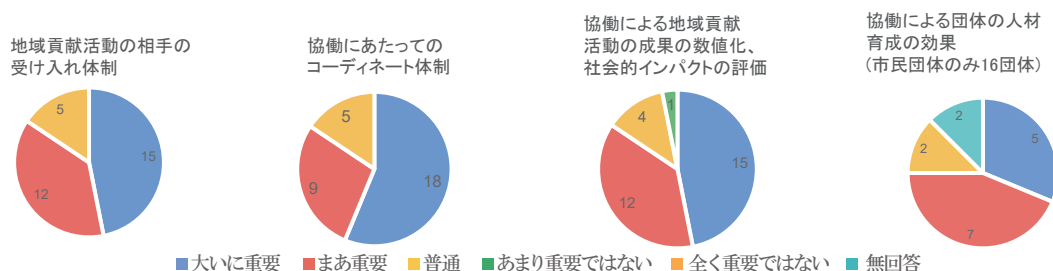
本調査に協力した市民活動団体は、2019年度の調査では「情報交換の機会の提供」が14団体(82.0%)と最も多く、2020年度は「ボランティア等の人的な支援」が13団体(%)と最も多い結果となりました。また「資金的な支援」「活動場所の提供支援」とも2019年度より指摘数が増えました。「情報交換」という協働の基盤づくりから、「人材」「資金」「場所」といった資源の対流による具体的な事業展開が期待されていると考えられます。

②企業が認識する【今後、四者協働を展開するにあたっての関心度(2つまで)】



本調査に協力した企業は、四者協働により活動を展開するにあたって参加したい項目として、「物品などの提供支援」が9事業所、「人的な支援(ボランティア等)」と「資金的な援助」が7事業所と、「人材」「物資」「資金」の提供について関心が高いことがわかりました。

③市民公益活動団体、企業、大学が認識する【四者協働による地域貢献活動に参加する上で重要だと思われる項目(32団体)】



調査に協力した市民公益活動団体、企業、大学に、四者協働による地域貢献に参加する上で重要な項目について尋ねたところ、いずれの項目も80%以上が「大いに重要」「まあ重要」と認識しました。特に「コーディネート体制」については、18団体(56.2%)「大いに重要」と回答し、協働による事業展開においては中間的な調整役が期待されていることがわかりました。また市民活動団体においては「協働による人材育成の効果」も重要と認識されていました。

ご協賛企業・団体

株式会社 叶 匠寿庵



叶 匠寿庵

地元の文化資源、環境資源を守り、地元の皆さんと100年先も住み続けられるまちづくりを目指した里山づくりに取り組んでいます。2020年7月「叶 匠寿庵SDGs宣言」を宣布。2021年3月「しが生物多様性取組認証 3つ星」を取得。

生活協同組合
コープ自然派京都



コープ自然派

消費者が主体的に運営に関わり、生産者と顔の見える関係を築くことにより、農業や添加物などを避け、生産者の健康、土壌など環境を守り、持続可能な生産、消費を実現しています。

小林事務機株式会社



小林事務機株式会社

私たちが働き生活している地域社会、更に全世界の共同社会に対して私たちは「ありがとう」（感謝の心）を広め豊かな社会創りに貢献します。

一般社団法人
滋賀グリーン活動ネットワーク



滋賀グリーン活動ネットワーク Shiga Green-activity Network - since 1999 -

産官学民の多種多様な会員が参加するネットワーク組織で「滋賀から『グリーン経済』をつくる」を合言葉に、グリーン購入をはじめとする環境負荷低減活動の推進に取り組んでいます。

株式会社滋賀銀行



SHIGA BANK

本事業に参加し、SDGsが目指す社会の実現には多様な人々との協働が大切だと実感しました。今後もパートナーシップを発揮し、誰もが幸せに暮らせる社会の実現を目指します。

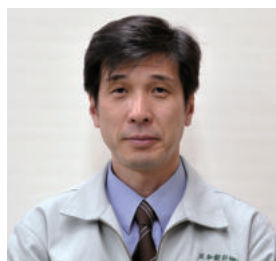
株式会社昭建



DYNAMIC SHOKEN 株式会社 昭建

昭建は時代に即した技術と経営により、豊かな社会環境の創造を経営理念としCSR活動やSDGsを取り入れ、建設会社としての責務を果たし持続可能な企業を目指しています。

正和設計株式会社



正和設計株式会社 SEIWA

新型コロナウイルス等の影響で教育機会に影響を受けている学生さんの等の為に、当社に就職して頂ける方には「正和設計(株)奨学金制度」を新設致しました。また働きやすい職場にする為に「短時間正社員制度」を導入致しました。

SOMPOひまわり
生命保険株式会社



SOMPOひまわり生命

弊社ではCSRの一環として、生命保険の役割である「万が一」が起きた時の保障だけでなく、「万が一」が起きにくく、お客さまに健康で豊かな生活を送って頂けるよう健康促進の観点からも様々な活動を行っています。

滋賀短期大学
ビジネスコミュニケーション学科



SHIGA TAN Shiga Junior College

滋賀短期大学では、地域の皆様のご協力をいただき、地域活動に参加する授業を開講しています。ボランティア活動などを通してSDGsや社会貢献に対する高い意識、郷土愛をもった人材を育成したいと考えております。

第一生命保険株式会社



一生運のパートナー 第一生命 Dai-ichi Life Group

一人ひとりの幸せのため、保険会社として提供してきた万が一の「保障」を磨き続けるだけでなく、「健康・医療」、「資産形成・承継」、さらには、人と人、人と地域や社会との新しい「つながり」で、「クオリティオブライフ」向上に貢献していきます。

大樹生命保険株式会社



当社は生命保険という長期に亘る保障を提供しています。未来永劫、途切れる事なく十分なサービスをお客様に提供し続ける事が当社にとり最も重要なCSRです。これからも当社に関わるステークホルダーに対し責任を果たしていきます。

学び舎 傍楽



京都中京区 みんなの居場所
学び舎 傍楽

京都烏丸で、主に不登校の親御さんの居場所を作っています。孤独にならない社会を目指し、みんな違っていいをコンセプトに活動しています。大津市市民活動センターの取組みは、時代に求められていると感じます。

琵琶湖汽船株式会社



びわ湖との共生を環境方針に定める当社では、びわ湖環境学習体験クルーズや、鮎ずし作り体験クルーズなどのカルチャークルーズを通じて、びわ湖の環境保全活動および地域の活性化に取り組んでいます。

株式会社まちづくり大津



都市再生推進法人として様々な支援制度を活用しながら大津市、地域住民、民間事業者との三者協働により中心市街地のにぎわいや魅力向上を図り、「住み続けられるまちづくり」をめざしています。

まちのきょういく委員会



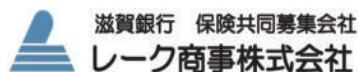
「まちのきょういく委員会」は、これからの教育を考え、実践していく民間主導の教育プロジェクト。さまざまな人たちが関わり、多様で多彩な学びを届けています。さあ、いろんな世界を覗いてみよう。

株式会社
よつ葉ホームデリバリー京滋



私たちよつ葉は、食は自然の恵み・人も自然の一部という価値観に重きを置き、自然との関わりを大切し、安心して暮らせる社会を求め、その実現にむけて行動します。

レーク商事株式会社



当社は、滋賀銀行のパートナー企業として環境にやさしい企業活動を展開している保険代理店です。「輝く未来へ、レーク商事にできること」を合言葉に地域社会の課題解決に貢献して参ります。

謝辞

2020年度は新型コロナウイルスの感染拡大により事業運営に大きな影響が出ましたが、子ども・若者の状況が悪化する中、少しでも支援につながればと思ってくださる市民、企業、行政、大学などの多くの方々から、暖かいご支援を賜りました。資金以外の資源のマッチングについても決して十分な支援とはいきませんでした、小さな一歩となりました。お一人お一人のお名前が浮かぶものの、ここに記すことができませんが、改めて感謝を申し上げます。

2021年度も「大津・SDGs 協働支援チャリティプロジェクト2021」と題し、四者協働による地域貢献を進めて参ります。引き続きご指導ご鞭撻賜りますようお願い申し上げます。

プロジェクト主催・報告書発行

大津市市民活動センター

〒520-0047

大津市浜大津4-1-1 明日都浜大津1階

TEL : 077-527-8661 FAX:077-527-8662

mail:moveinfo@movementotsu.com

HP:http://movementotsu.com